

平成29年度公益財団法人新潟市海洋河川文化財団 事業報告

事業概要

【期 間】

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

【概 要】

当財団は、平成29年4月1日に公益財団法人として最初の1年をスタートさせた。

公益目的事業として掲げている、「海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業」、「海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示、飼育事業」を行うとともに、新潟市水族館の指定管理者として（公財）新潟市開発公社と共同事業体を組み2年間の管理運営をスタートさせた。

また、優秀な人材育成のためのコーチング、スキルアップ研修の実施、指定管理の再指定に向けた指定管理者戦略会議の立ち上げなどを行った。

なお、事業報告の詳細については、次のとおりである。

【事業名】

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業
- 2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

収益事業

- 1 施設管理に付帯する事業

公益目的事業

- 1 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

【事業目的】

新潟における海洋・河川文化の現状や変遷を調査研究及び情報発信することにより、海洋・河川文化及び海洋・河川等、人との関わり大切さを後世に継承し、併せて地域社会の持続的発展の担い手を育む。

【主な事業内容】

- (1) 海洋・河川文化の普及啓発

○…新規事業

区 分	名 称	プログラム等	実施日	参加人数
体験学習	田んぼ体験	田植え	6月4日	27人
		稲刈り	10月1日	25人
		脱穀・粃すり	10月15日	27人
		わら細工	11月5日	25人
講演会	新潟県の淡水カメ類…希少種と外来種	講師：生物多様性保全ネットワーク新潟、新潟市潟環境研究所	5月20日	31人

	開館記念日特別講演会	講師：西源二郎、清水榮一、内山隆	10月22日	48人
	知ってる？知らない？研究者が語るイルカの話	講師：中束明佳、鈴木美和、一島啓人、中原史生	3月10日	47人
	水産資源を支えるプランクトン	講師：森本晴之	3月17日	19人

区分	名称	実績
教育施設との連携	総合学習の受け入れ	小学校5校、中学校14校、中等教育学校1校、高校2校、養護学校1校、専門学校1校 計24校 425人
	実習生の受け入れ	飼育実習：高校1校3人、専門学校4校16人、大学4校6人 獣医実習：大学2校2人 博物館実習：大学3校3人 計14校30人
	教育現場への講師派遣	小学1校、中学3校、大学1校 計5校 派遣職員 計7人
	学習支援	高校1校、大学5校 計6校

(2) 海洋・河川文化の調査研究

区分	名称	内容
研究発表	JAZA（日本動物園水族館協会）関連	水族館技術者研究会、海獣技術者研究会など
	研究会・学会等	日本動物園水族館教育研究会、東京大学大気海洋研究所研究会など
各種会議	JAZA関連	園館長会議、設備会議、事務主任者会議、魚類作業部会など
	JACRE（日本鯨類研究協議会）関連	JACRE会議、JACREトレーニングセミナーなど
共同研究	日本海区水産研究所・富山県水産研究所共同研究	アカムツの種苗生産技術の開発研究及び親魚養成技術の開発
	日本海区水産研究所共同研究	ヤナギムシガレイの生態学的解明の共同研究

(3) 海洋・河川文化の保護保全（生物種の保全を含む）

区分	名称	内容	回数
生息域内保全	シナイモツゴ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	2回/年
	ハクバサンショウウオ調査	糸魚川市の両生類の生息調査	2回/年
	ホトケドジョウ調査	県内の希少淡水魚の生息調査	1回/年
連携調査	ROV（水中探査機）	寺泊沖で深海生物の調査	1回/年
	カメプロジェクト	県内の淡水カメ類の生息調査	4回/年
	親子魚探検（五泉市）	生物多様性保全ネットワークの自然観察会への講師派遣	1回/年
	水あぶり（関川村）	タランペクラブの自然観察会への講師派遣	1回/年

2 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

【事業目的】










新潟の自然環境とそこに生息する水生生物の展示を基礎としながら、多種多様な環境の生物を展示し、各種体験型プログラムを実施することで、市民が海洋・河川や水生生物などに親しむ機会の充実などを図り、海洋・河川に関心を持つきっかけとなる機会を創出する。

【主な事業内容】

(1) 水生生物に関する知識の普及振興

■…新規事業

名称	プログラム	内容	実施日	参加人数
いきもの 教室	みてみてクラゲ	ミズクラゲをすくい手元の小容器に移し、間近で体の構造を観察。ポリプやエフィラ、ミズクラゲの一生を紹介。エサを与え、とらえ方、体に取り込む様子を観察した。	4月16日	20人
	ビーバーを知ろう	ビーバーの絵を描く、観察を通して理解を深める。また、にいがたフィールドで柳を採集し給餌観察する体験を通して食べているものや歯の構造を理解してもらった。	5月21日	18人
	調べてみよう、イルカのあれこれ	鯨類ポスター、解説パネル、骨格標本、生体を使った講義。屋内プールや治療プールでのハンドウイルカの体の部位の計測と記録を行った。	6月18日	18人
	ペンギンについてもっと知ろう	ペンギンについて、生息地や体の作り、卵についての解説を行う。また、実際にギ卵を作成することにより、水族館でのギ卵の重要性を伝えた。	7月9日	23人
	貝の標本づくり	貝の体のつくりを、観察と触れることで知ってもらう。また、水族館地先の岩礁域にいる貝を採集し、自然環境下で生息している貝に触れる事による体験を通して、より理解を深めてもらった。	7月26日	22人
	ウミホタルの観察	顕微鏡でウミホタルの体を観察し、発光実験を行った。	8月23日	25人
	歯を観察しよう	様々な動物の歯を観察し、特徴や食性について解説した。	9月10日	11人
	サメの解剖	サメの外部と、解剖して内部の体のつくりを観察することにより、サメの生態への理解を深めてもらった。	10月29日	22人
	水族館でつかうエサ	当館で与えている小さなエサ(シオミズツボワムシやアルテミア)、大きなエサ(マサバ、ホッケ、ヤナギ)を紹介し、それを摂餌する飼育生物を紹介した。	11月19日	17人
	からだのふしぎ	動画や写真を見ながら、シルエットクイズや会話による掛け合いを行い、魚類の様々な形に注目し、そこから読み取ることのできる事柄を紹介した。	12月17日	13人
魚拓をつくらう	魚の体のつくりを、ヒレを描き、触りながら観察して「魚」の理解を深めた後に、魚拓を作成した。	1月21日	20人	

	アシカトレーナー体験	アシカ科動物についての生態を知ってもらおう。また、実際にどのようにトレーニングが行われているかの理論、トレーニング疑似体験、トド・カリフォルニアアシカを使ってのサイン出しなどを行った。	2月4日	23人
	ひれあし類ってどんないきもの？ 	ゴマフアザラシやトドを間近で観察し、ひれあし類の体のつくりについて理解を深める。陸上での移動や遊泳などにも触れ、科ごとの違いや分類について理解してもらった。	3月11日	8人
定期解説	アクアラボ体験	通常展示では伝えられないさまざまなプログラムを開催し、来館者へ発信した。	通年(繁忙期以外)331回	3,269人
	にいがたフィールドガイド	にいがたフィールドで自然環境と希少生物の域外保全を紹介した。	各月第3土曜日(12~2月を除く)、9回	58人
	育成室開放	育成室を開放し、育成の情報、生物の成長を会話形式で解説を行った。	7月18日~21日	130人
企画展示	特別展示「新潟の淡水カメ」 	新潟県内に生息する淡水カメ4種、ニホンスッポン、ニホンイシガメ、クサガメ、ミシシippiaカミミガメを展示し、県内の淡水カメの現状を紹介した。	4月28日~6月11日	23,494人
	新潟市水族館50年のあゆみ 前編・後編 	平成29年度は、新潟市立新潟水族館が開館して50年であった。これを機に「新潟市水族館50年のあゆみ」と題し、50年間の出来事や展示生物や施設の変化、生物保護への取組等を紹介し、長年新潟市にある水族館としての役割等を紹介した。	7月14日~11月26日	99,003人
	水族館の思い出写真展 	開館50年を記念して開催した「新潟市水族館50年のあゆみ」にちなみ、来館者が撮影された写真を公募し、展示した。	7月14日~3月31日	入館者全員対象
	第4回フォトコンテスト受賞作品展	館内で撮影した写真を募集しコンテストを行い、上位受賞作品の展示会を開催した。 応募期間：7月1日~10月29日 応募点数：340点 展示点数：140点	12月15日~2月4日	17,471人
	深海には何がある？水中探査機で見た日本海 	日本海の深海底の様子を水中探査機で撮影した水中映像や深海底に生息する生物を通して紹介した。	2月23日~4月8日	25,621人
参加型イベント	世界カワウソの日 	ユーラシアカワウソやラッコの解説を通して、カワウソに関する理解を深めてもらうために実施した。カワウソとラッコの体のつくりの違いが分かるぬりえや缶バッチ作り、毛皮に触れるコーナー等を設けた。	5月27日~28日	入館者全員対象
	大人のための写真教室	水槽撮影時に役立つ技術をレクチャーし、実際に館内で撮影を行った。	10月18日	22人
	マリンピア日本海の活魚輸送車展示 	活魚輸送車を展示し、来館者に見学してもらおう。また解説と魚積み下ろしの疑似体験を行った。	10月14日(2回)	400人
	フンボルトペンギン飼育の工夫 	フンボルトペンギンの飼育個体数の変化、個体識別の方法や健康管理、繁殖への取り組みなどについてパネル、偽卵、タグ、羽などの物品を用いて解説した。	10月15日 10月21日 (各日3回)	80人
	ビーバー1/2 成人式 	ビーバーの餌やかじった木などを展示、野生で作るダムや巣について紹介した。	1月13日~14日	入館者全員対象

ガイドツアー	ナイトツアー	通常観ることのできない閉館後の夜の水槽の様子を観察してもらい、昼と夜での生き物の活動の違いや外観の変化等を解説した。	9月15.16.22.23日の4日間	84人
	水族館裏側体験イルカ編	調餌場・音響室などの見学、骨格標本の観察、生体に触れることなどを通して、イルカの生態や飼育方法などについて学んでもらった。	12月4日間 2月4日間	89人
	イルカバックヤードミニガイド	普段入れないイルカのバックヤードの見学を通して、エサやイルカの生態について学んでもらった。	8月21日～30日	124人

(2) 水生生物の収集、飼育、展示

区分	名称	内容	回数
飼育展示	館内飼育展示	500種 20,000点の魚類、海獣その他水生生物の飼育展示規模を維持	常設
	イルカショー	イルカの認知、行動能力などを解説し、楽しく学べるイルカショーを実施した。(約20分)	4～5回/日
	マリンサファリ給餌解説	トドに餌を与えながら、体のつくりや生態について解説を行った。(約10分)	2回/日
	ひれあし類解説	アザラシ科とアシカ科の違いなど、ひれあし類全般についての解説を行った。(約10分)	2回/日 ※夏季は除く
	ラッコの給餌タイム	ラッコが餌を食べる様子を観察することができる。また、ラッコの生態、動作について給餌しながら分かりやすく解説を行った。(解説:約10分、4回目のみ)	4回/日 ※給餌
	ペンギン解説	ペンギン散歩道(夏季はペンギン海岸)でペンギンの歩く様子等を見ながら、分類や生態、生息地の環境について解説を行った。(約15分)	2回/日
	日本海大水槽解説	大水槽の展示生物の紹介や海洋環境に関する知識の普及、水族館のしくみまで多角的な情報を伝えた。(約10分)	1～2回/日
	磯の生き物解説	磯の体験水槽で、生物の扱い方や、生息環境について、解説を交えながら近くで観察してもらった。(約10分)	1回/日
生物収集	相模湾乗船	キンメダイ、シキシマハナダイ等乗船採集	1回/年
	佐渡乗船	エビカゴ漁乗船採集(深海生物)	2回/年
	寺泊乗船	アカムツ漁乗船採集	5回/年
	岩船乗船	アカムツ漁乗船採集	1回/年
	出雲崎	アマモ場生物採集	7回/年
	能生乗船	ベニズワイ漁乗船採集(深海生物)	1回/年
	能登島	ウミホタル採集	1回/年
生物交換	ふくしま海洋科学館	マイワシなど	5回/年
	東海大学海洋科学博物館	キンメダイなど	2回/年
	のとじま臨海公園水族館	マダラなど	3回/年

収益事業

1 施設管理に付帯する事業

【事業目的】

施設利用者に対する利便性を図るため、レストラン及び売店、自動販売機等の設置。

【主な事業内容】

区分	場所	設置数
レストラン	本館2階	1ヶ所
軽食	屋外、屋上 ※季節営業	2ヶ所
移動販売車	アプローチ棟手前 ※季節営業	2ヶ所
売店	アプローチ棟	1ヶ所
自動販売機	館内各所	17ヶ所
ロッカー	本館1階	1ヶ所
記念メダル	本館1階	2ヶ所
ブリクラ	水辺の小動物ゾーン	1ヶ所